

『うつくしま、まちづくり推進レポート』

Vol.14

平成17年1月14日 発行

1 まちづくりと公共交通

「公共交通」とは？

公共交通とは、バス・鉄道などの陸上交通やフェリーなどの海上交通及び航空機などによる交通ネットワークをいいます。

まちづくりと公共交通

・公共交通に対する価値観の変化

公共交通の存在価値は、採算性や地域の需要を絶対的な基準として評価されると考えられてきました。いままでは、この考え方で公共交通を評価することは、暗黙の了解として扱われてきました。

そして、鉄道の赤字ローカル線や赤字のバス路線が次々と廃止されていきました。

そのため、それらを利用していた人たちも車を使うようになり、車による交通渋滞の一因になりました。

その反省から近年は、その考え方を見直す方向に変化してきています。

それは公共交通はその地域の財産であるという考え方で

す。今までの考え方の基準である採算性は、公共交通事業者にとっての評価基準であり、その基準から判断する場合には、住民の評価などは考慮されませんでした。

地域住民にとっての公共交通の価値は、今までの採算性ではなく、その地域全体にもたらす便益の全体によって評価されるべきであるという評価方法の転換が必要とされています。

今回は、公共交通の中からヨーロッパの都市で導入され成功を収めているLRT（近郊型路面電車）を取り上げます。

・公共交通を活かしたまちづくり

写真1はヨーロッパのある都市の中心市街地の様子です。

ここでは、中心市街地から車を排し、代わりにLRT（近郊型路面電車）を導入しました。

LRTは、ヨーロッパ各都市の中心市街地と各住宅地などを結び住民の足として活用されています。

従来の鉄道に比べて維持コストも安価であり、車両も小さいためまちなかの道路のような狭いところに路線を引くことも出来ます。



にぎわいのあるトランジット・モール（フランス グルノーブル）
出展：服部重敬氏所有写真（写真1）



都心部トランジットモール
バスLRT各系統の乗り継ぎ

（写真2）



国鉄との結節点
中央駅の地下LRTホーム

（写真3）



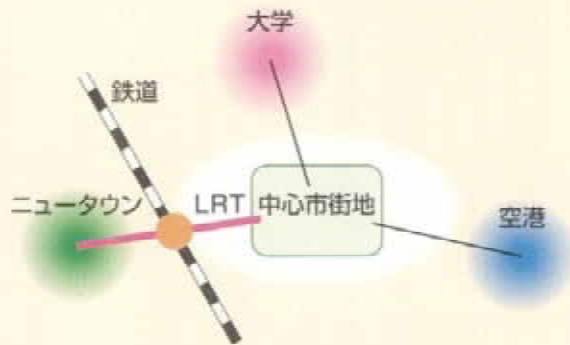
LRT終点のトランジットセンター
LRTとバスがループ状に交わり周辺に駐車場が
配置されている

（写真4）

写真でもわかるとおり、車が街の中に入っていないため人が町の中を自由に歩いています。また、他の鉄道やバス等により乗り継ぎし易い様に工夫されています。それは乗り継ぎ駅を作るだけでなく、相互交通機関の発着時刻の調整等も行われています。(写真2・3・4、図1参照)

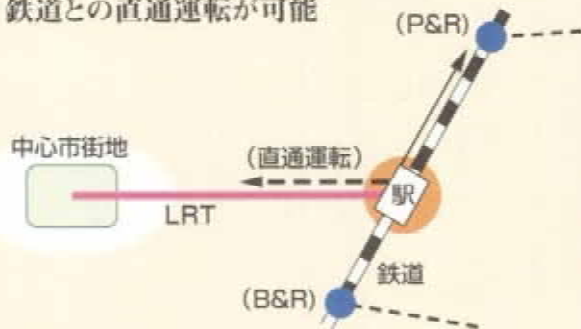
LRTという地域住民に便利な公共交通が出来たことにより、利用者が増え中心市街地を人が歩き、活況を呈しています。(写真1参照) (図1)

● 中心市街地 ~ 郊外拠点等への導入



中心市街地と郊外を結ぶLRT、バス、鉄道
(ドイツ ザールブリュッケン)

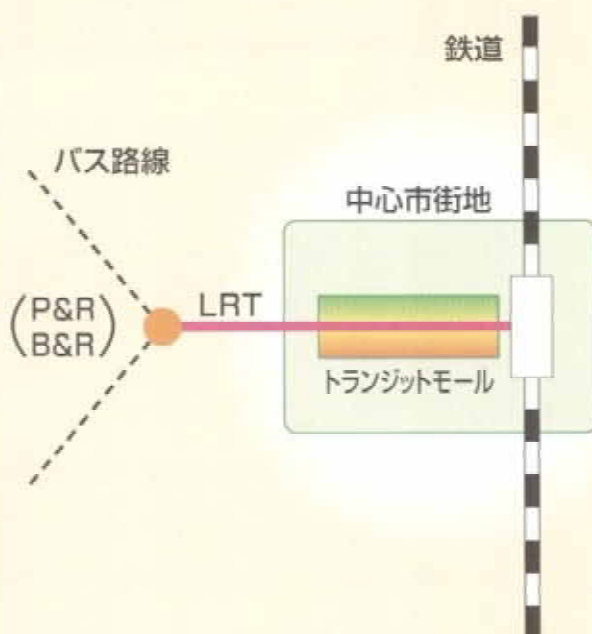
● 中心市街地 ~ 郊外鉄道駅への導入 鉄道との直通運転が可能



旧鉄道を利用し郊外へ延伸 (フランス パリ)

- P&R: パークアンドライド、結節点の駐車場で自家用車からLRTへ乗り換え
- B&R: バスアンドライド、結節点でバスからLRTへ乗り換え
- C&R: サイクルアンドライド、結節点で自転車からLRTへ乗り換え

● 都市軸への導入



高い加減速性能を生かし、安全にトランジットモールを走るLRT
(ドイツ ブレーメン)



住宅地への導入 (ドイツ ブレーメン)

LRTが導入され、まちに人が戻ってくると、今度はまちが変わりました。トランジットモールが各都市に整備されました。トランジットモールとは、ただ車を排しただけでなく、中心街の通りを一般の車両通行を抑制した歩行者専用の空間として整備し、バス、路面電車等の公共交通機関だけが通行できるようにした街路のことを言います。そのため、街の中を人が安全に快適に歩けるようになり、イベントなどの開催やお祭りなどの街を活性化させる活動が可能になりました。

中心市街地（商店街など）は、もともとモーターゼーション前に完成されたものがほとんどで車社会に対応していません。そのため駐車場が少なく有料である場合がほとんどです。だんだん人通りが少なくなって、衰退してきました。代わりにモーターゼーション後に出来た郊外店は、広い無料駐車場があり、車に乗った人がどんどんやってきます。こうなると、中心市街地は人（お客）が来ないため、店が立ちゆかなくなり、店を閉めるところが増えていき、ますます人が来なくなるという悪循環に陥ってきました。

その悪循環を断ち切るための手段の一つが、地域の財産としての公共交通の活用であると考えられています。今回のLRTの例は、利用しやすい公共交通が整備されることによって、中心市街地に人を集めることにより、街が賑わいを取り戻すことができた一例です。

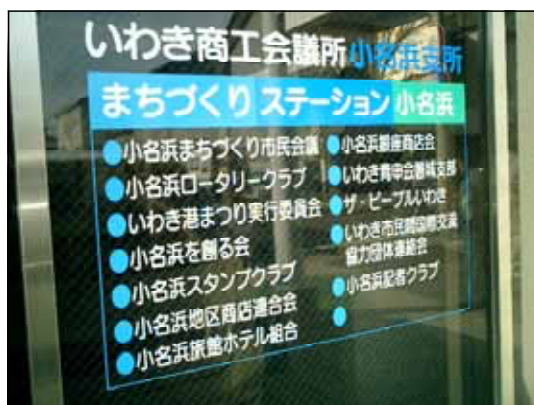
（出展：写真と図 ライトレールトランジット（社団法人日本交通計画協会））

2 県内の「まちづくり」情報～小名浜まちづくり市民会議～

「小名浜まちづくり市民会議」は、平成12年12月に「港とまちとが一体となったまちづくり」の推進を目的に、設立されました。

この会議の構成員は、小名浜のまちづくり団体や小名浜に住んでいる市民、小名浜で活動している企業です。「小名浜まちづくり市民会議」の活動は、ガイドマップの作成や各種イベントの開催などのこれからの小名浜の「まちづくり」のための活動を続けています。

また「小名浜まちづくり市民会議」は、いわき市と「まちづくりパートナーシップ協定」を結んでいます。現在、「小名浜まちづくり市民会議」は、市と協力しながら小名浜のまちづくりを進めています。



3 「元気なうつくしまづくりの本」の紹介

「平成16年度 まちづくり推進講座」については、県民カレッジ連携講座としての位置付けのもと、県内3会場において、延べ360名の皆様に受講いただきました。ありがとうございました。

平成16年度の講座で使用した「元気なうつくしまづくりの本」を紹介します。

ダウンロードはこちらから <http://www.pref.fukushima.jp/toshi/machizukuri.html>

4 トピックス

9月28日 福島空港において「空の日フェスティバル」が開催されました。

今年は小雨が降ったり止んだりする天気の中、たくさんの皆様においでいただき、ありがとうございました。今回も福島空港公園や福島空港ターミナルビル内外で、様々なイベントが行われました。

ウルトラマンとの握手会・麻薬探知犬の実演・福島空港スタンプラリー・福島空港まるごとウォッチングなど、来場者のみなさまも楽しいひとときが過ごせたかと思えます。

今後とも福島空港の利用促進に御協力を、よろしく願います。

「空の日フェスティバル」の様相



太鼓の演奏



ウルトラマンと握手会・記念撮影



盛況の無料縁日の模様



麻薬探知犬実演の様相

5 編集後記

「うつくしま、まちづくり推進レポート Vol.14」はいかがでしたでしょうか？
今後とも内容等を充実して参りますので、ご意見、ご提案、ご要望、ご質問などお寄せ下さい。

メールマガジン（無料）の申し込みをご希望される方は、
1. 団体会社名、2. 氏名、3. メールアドレス、4. 電話番号等（送信エラーの際のご連絡のため）
よろしければ、5. 性別、6. 年齢を記入の上、まちづくり推進グループのメールアドレスまで希望する
旨ご連絡下さい。（E-mail: machizukuri@pref.fukushima.jp）
登録された方には、レポートの更新情報などをメールにてご案内いたします。

【発行元】 福島県 土木部 都市領域 まちづくり推進グループ

電話：024-521-7510

FAX：024-521-7956

E-mail: machizukuri@pref.fukushima.jp

URL: <http://www.pref.fukushima.jp/toshi>

[/machizukuri.html](http://www.pref.fukushima.jp/toshi/machizukuri.html)